

なばり市議会だより

no. 65

平成24年7月
発行 ■ 名張市議会

● 議会広報特別委員会 ● 三重県名張市鴻之台1-1 ● 電話 63-7834~5 FAX 64-8870 ● E-mail gikai@city.nabari.mie.jp



給食の時間に行われる食育の様子(赤目保育所)

平成24年6月定例会

名張市土地開発公社解散へ

6月定例会(第352回)は、6月8日開会、26日閉会の19日間の日程で行われた。提出された議案は、市税条例の改正などの報告2件、平成24年度一般会計補正予算案2件の計15議案である。

算(第1号)のほか、名張市土地開発公社の解散、公社保有土地を買い戻すための地方債の許可申請についてなどの議案11件、議員提出議案2件の計15議案である。

『議会改革』 進行中!

with YOU ~あなたとともに~

名張市議会では、平成23年10月28日議会改革検討準備委員会(永岡禎委員長)を立ち上げ、議会改革に向けての検討項目などの協議を重ね、24年3月26日議長に結論を答申しました。

答申に基づいて、8月には(仮称)議会改革検討委員会を設置する予定です。なお、学識経験者委員には近畿大学法学部准教授 辻陽さんに依頼することを決め、5月19日に承諾を得ました。市民委員は6月29日までに公募を終え、7月中に選考を予定しています。

名張市議会は、これからも、市民の皆さまの声を反映できるように、議会機能の向上を図っていきます。また、情報公開や説明責任を果たすとともに、独自性を発揮する議会として、期待に応えるよう努めてまいります。



『開かれた議会』を実現してまいります。

議会改革の進展状況は、随時、「なばり市議会だより」でお知らせいたします。



議員提案で食育推進条例を!

食は生活の基本であり、健康な心や体づくりのみならず、食を通じたコミュニケーション、地域伝統文化の継承、自然との共生など、あらゆる分野にわたって重要な役割を担っています。

また、食は生きるうえでの基本であり、知育・徳育および体育の基礎となるべきものと位置づけられています。さ

メンバーは…

食育推進条例検討委員会 (座長) 吉住 美智子 (副座長) 川合 滋 (委員) 森岡 秀之、豊岡 千代子、三原 淳子

さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と選択する力を身に付け、地産地消、家庭での共食など、幅広い観点で健全な食生活を実践できるよう食育の推進が求められています。

平成17年6月に食育基本法が制定され、市町村に食育推進計画策定の努力義務が課されましたが、名張市では未だ策定されていないのが現状です。これらを踏まえ、検討委員会を立ち上げ、議員提案による名張市食育推進条例の制定に取り組んでいます。

これらの議案は、本会議、常任委員会で慎重に審議し、原案どおり可決した。請願は3件提出されたが、いずれも不採択となった。一般質問は9人の議員が登壇し、市政全般にわたり当局の考えをたがした。

一般会計補正予算7030万円を可決

平成24年度一般会計予算総額261億2730万円となる

補正予算は一般会計のみで7030万円の増額補正である。主に国庫の補助金や基金との財源の組み換えによるものである。歳出の主なものは災害復旧費、地域振興費、成人保健事業費などである。補正予算は6人が質疑を行った。熱心な議論が展開された。

一般質問

提 尊 掲
問 議 員 々
出 され 文
重 し、編 集
載 して います。

公明党 石井政
災害対応力の向上

答弁 補完の機能を充実

Q 平時の危機管理の重要性は行政のみならず自助(個人)も同様だ。戦後の大きな災害は伊勢湾台風だ。2年後に災害対策基本法が施行され死者が減少した。防災の本質は人が死ぬくないことだ。自分の命を守りぬく自助、災害時要援護者対策、自主防災組織の強化と、道路や橋梁の老朽化対策について、市の取り組みを問う。

A 防災は、自助・共助・公助があり、補完の原則が機能する必要がある。市民の防災意識は高まっている。訓練・啓発に努める。高齢者や障害者など災害要援護者名簿作成を地区などの協力体制のもと活用する。主要幹線道路の橋梁(24カ所)は老朽化対策を実施した。今後は点検調査を実施していく。

地域に不足する産科

答弁 まず小児医療を充実

Q 市立病院は開院当初28人の医師がいた。研修制度の改正などで22人まで減少したが、市長、病院の努力により現在、32人の医師を確保したことに對

し、議員の立場から感謝する。地域医療支援病院に承認されたことにも敬意を表する。地域に不足する産科設置について求めたが、検討しているのかを問う。

A 必要性は十分認識している。産科と密接な関係にある「小児医療センター」子ども発達支援センター」など小児医療の充実を図った段階で、中長期的な視点に立って重要課題として、産科の設置に取り組む。小児医療の充実により民間の産科が進出する期待もできる。

「日本共産党」橋本マサ子
受入れは住民合意で

答弁 説明会を開催する

Q 三重県・市長会・町村会は震災がれきの広域処理の対応について「合意書」と「覚書」を結んだ。県は震災がれきを受け入れるにあたり、基本的な考え方を示すガイドラインを作り、県民に意見を募ったが、放射能汚染に対する不安は払しょくされていない。がれき量など現地の正確な情報も明確にされていない。がれきの受け入れは、「安全確保」と「住民合意」が必要だ。

A ガイドラインに対する意見は12444件寄せられた。住民の不安払しょくに向け、県と綿密な協議・調整を行う。説明会の日程は、ホームページや広報紙などさまざまな媒体で周知し、十分な資料と情報提供に努め、住民の安心と理解を得たい。

生活交通網の確立を

答弁 多様な主体が一体で

Q アップダウンの多い名張の地形は、高齢化に向けた「生活交通網」の確立が、衣食住に匹敵するほど重要だ。交通空白地・不接地ですべてに地域の皆さんの努力で、独自にバスなどの運行が始まっている。地区住民の要望に基づき、通学や老人福祉センター「ふれあい」行きなどの代替えをしている地域もある。暮らし・教育・福祉・観光利用など、誰でも安い運賃で市内を縦横に移動できる交通網の仕組み作りを求める。

市民の代表者・学識経験者・バス・タクシー業界

との関係者で公共交通について協議してきた。多様な主体が一体となって、交通まちづくりに取り組みめるような実施計画を、今後2カ年を目標に作りたい。

「心風会」川合滋

答弁 活動協力員制度検討

Q 各地域で地域ビジョンが作成され、15地域づくり組織はそれぞれ地域の特色を出してきている。反面、各地域づくり組織が歩調を合わせなければならぬ事もある。それは老人や子どもなどへの対応だ。消防団も現在の9分団体制から、地域づくり組織ごとの15分団に改編すべきだ。

A 地域ビジョンの実現、地域主体のまちづくりのため、地域部に専任のスタッフを配置しサポートしていく。将来

地域づくり組織ごとの分団編成が必要と考えるが、当面消防団OBなどで構成する消防活動協力員制度を検討している。

住宅団地のコミニラ

答弁 費用対効果の検討

Q 住宅団地の公共下水道整備備計画はどうなっているのか。南部処理区の一つが丘・百合が丘は公共管理を先行させる方針と思うが、北部処理区に入っていた合併処理場はどうなるのか。ここには、住民が自主管理運営している処理場がある。地域住民は、一日でも早い公共管理を望んでいる。

桔梗が丘第3処理場区域

A などの中央処理区の住宅団地は、順次公共下水道へ接続していく。旧北部処理区の住宅団地は、第3期の事業認可を取得し公共下水道に接続する。接続が公共移管しそのまま稼働するかについては、費用対効果を加味し今後の検討課題とする。

「清風クラブ」森岡秀之

地域づくりの法人化

答弁 法人化を推進

Q ゆめづくり協働事業を進めていくための、行政の役割と地域での役割をどう考えているのか。法人化についてはどのように進めるのか。

A ゆめづくり協働事業提案制度においては、事業ごとに地域と行政の役割分担を明確にし、協働により取り組む。財政状況や地域力によって左右されることから、役割分担は各事業において地域と行政の合意で解決を図る。地域づくり組織の法人化の必要性は十分認識しており、法人化マニュアルを作成し、国の動向を見極めながら支援を行っていく。

土地利用と農業連携

答弁 連携を図り計画作成

Q 都市整備部における平成24年度までの計画「土地利用マスタープラン」の進捗と、産業部において25年度までに立案する「農業振興地域整備計画」の連携は。

A 22年度に三重県により「農業振興地域整備基本方針」が変更され、「名張市土地利用マスタープラン」とも整合を図りながら、「農業振興地域整備計画」を作成する。

「心風会」幸松孝太郎

高校統廃合の問題

答弁 地域協議会へ差戻し

Q 県立高等学校の再編活性化に関して、県教育委員

会が進めている平成27年度市内2校の統合案と、目指す学校像についてはどういうように考えているのか。市民の声を県に届けるためにアンケート調査を実施してはどうか。市教育委員会の考え方を問う。

A 地域協議会の委員を見直したうえで、原則公開の協議会を再度開いて統合案などを協議することになった。市教委としては、地元の声を県教委に伝えていかなければならない。提案されたアンケート調査は非常に有効な手段であると考えている。目指す学校像について、地元の高校に進学する生徒を全て受け入れる体制づくりを県に強く働きかけていく。

子育て支援の強化策

答弁 3歳未満を拡大

Q 子ども部の新設により、子育て支援サービスはどのように強化されるのか。それによりどのような「名張躍進」が期待できるのか。

A 子育て支援サービスの強化策は、3歳未満児の受け入れ拡大などの保育サービスの充実だ。その他にも、子育て相談の内容充実、マイ保育ステーションの拡大、学童保育サービスの充実、病児・病後児保育などの特別保育の推進など、安心して子どもを産み、育てられる環境づくりを進める。職員のスキルアップを図り、子育て・子ども支援に係る施策を積極的に推進していく。



コミュニティプラント北部処理区

【清流クラブ】高田裕嗣
警戒区域への伝達は

Q 土砂災害警戒区域に指定され、地域内でおおむね500戸が該当する。伊賀地域では3カ所目である。(伊賀市は2カ所大雨に対しての安全確保に自動・共助の努力が必要である。行政はホームページ・電子メール・FMなばりなどで注意を呼びかけると言うが、高齢者家庭が増加する現状で施策の効果はどれほどあるのか。より綿密な方策が必要だ。

A 災害時緊急情報が配信される「防災ほっとメール」に3900人が登録。名張市土砂災害情報相互通信システムなどにより迅速、正確に対応するとともに、状況により広報車、サイレンなどでも対応する。



防災ほっとメール

急傾斜地への対応

Q 急傾斜地指定を受けている住宅地で5戸未満エリアへの、行政支援の現状を問う。5戸以上の区域では、安全確保のために行政の支援が得られる。

山間地だけでなく、まちなかでの法面、住宅団地の一部も急傾斜地に指定されている所もあるもので行政支援を求む。

A 一定の基準による制度ができていく。先進地の事例を研究し支援、整備が図られるよう県に要望していく。

【清流クラブ】吉田正巳
地域医療支援病院

答弁 良質な医療提供

Q かねてより名張市は、地域医療支援病院指定の申請を提出していたが、平成24年6月1日に、市立四日市病院と四日市社会保険病院と共に承認を受けた。指定を受ける事によるメリットは。

A 名張市立病院は、紹介率75.8%、逆紹介率43.8%で、紹介率60%以上・逆紹介率30%以上の条件と、病床200床以上・救急医療提供など、地域医療支援病院の条件を満たしている。地域医療全体の質の向上のために、他の医療機関とより一層の機能連携・分担を推進し、市民に安心して、良質の医療を提供する。

生活保護の実情は

答弁 横ばい状態で推移

Q 最近、生活保護制度がマシなところを取り上げられ話題となり、議論を呼んでいる。全国的に受給者数が増加傾向にあるが、名張市において、受給者数と医療扶助費増などの実情はどうか。

A 平成20年秋のリーマンショック以降に増加した保

護申請や生活相談が、現在も横ばい状態で続いている。24年4月の受給者は356世帯532人であり、19年度と比較すると約1.5倍である。医療扶助費は、単純に抑制することは適切ではないが、診療内容の点検や調査により適正受診体制を図り、関係機関と連携し取り組む。

【公明党】富田真由美
救命・防災教育

答弁 推進する

Q 東日本大震災を踏まえ、名張市に応じた小中学校の救命・防災教育をどのように取り組み、進めてきたのか。社会の一員として救命技術を身に付けるため、中学3年生に普通救命講習を実施するとともに、各種行事などにAEDを無料貸し出しすべきだ。

A 名張市での災害を想定した「防災対応マニュアル」の作成を進めている。普通救命講習とまではいかないが、全中学校で救命講習を行うようにする。市民の生命を守る観点からAEDの無料貸し出しを実施する。

高校再編の考え方は

答弁 県へ要望する

Q 子ども条例を有する名張市は、0歳から18歳までの子どもたちの学ぶ権利を守るべきだ。統合された普通科の割合が減り、子どもたちのニーズに応えられない。市としてどのように考えているのか。

A 基本的には地元の高校に受け入れることのできる

教育環境と、さまざまなニーズに応えられるよう、子どもや保護者の声を県に要望していく。

【心風会】柳生大輔
伊賀消防広域化は

答弁 引き続き検討

Q 平成24年2月伊賀広域行政事務組合協議会で、25年4月1日に伊賀ブロック広域化決定との最新計画が示されたが、広域化に必要な環境整備が進んでいない。このままでは、計画通り推進することは極めて難しいと考える。

A 消防の広域化については、両市の関係職員による事務的な検討を踏まえ、伊賀ブロック広域消防運営計画策定委員会と協議を行ってきた。両市の職員処遇の調整や救急医療体制の明確化が難航し、目標としている25年4月に向けての広域化実施は、非常に厳しい状況となった。引き続き検討を進め、条件が整いしスピード感を持って実行していきたいと考えている。

どうするがれき処理

答弁 伊賀市と協議が必要

Q 先般、三重県における東日本大震災の災害廃棄物処理に関するガイドラインと廃棄物の広域処理の考え方が示された。同時に市長から三重県市長会会長の立場として、がれき処理関連の報告を受けた。あらためて名張市長のがれき処理に対する見解を問う。

A 困難ともいえる東日本大震災被災地の、一刻も早

い復興を進めるために、がれき処理に全力で協力していきたい思いがある。一方で、自治体には、市民の安全と安心の生活を守るという重大な責務があり、これを脅かすことはあってはならない。今後、市民に対して十分な資料などによる情報提供や説明会を実施するとともに、伊賀市との密接な連携を図りながら対応する。

その他の質問

浦崎陽介

【通学路の安全対策】

Q 各地で通学時の事故が多発しているが、市内の通学路の歩道整備や注意看板の設置、警察への規制標識の設置要望を行うべきだ。教育委員会ではあぶない看板を作成しているが、交通安全用の注意看板を作成すべきだ。PTAなどが設置しているが、事故などの責任は教育委員会なのか。省庁から通学路の総点検の要請が来ているが、早急の対策をお願いする。

A あぶない看板はPTAに設置をお願いしているが、責任は教育委員会だ。各学校の報告を踏まえて対応する。

三原淳子

【地場産商品開発は】

Q 市民の期待が大きい「とれたて名張交流館」の8月オープンに向け準備は進んでいるか。名張の地場産商品開発の推進と地産地消を進め、市内

農業の発展と、経済が活性化する取組みを求む。

A 現在、出荷者の募集を行っている。あわせて、地場産野菜などを提供していただくため、新規出荷農家育成研修会を開催している。オープンを契機に、生産者と消費者の交流が深まり、地域資源の活用で地域農業が活性化するように取り組む。



とれたて名張交流館完成イメージ

吉住美智子

【照明のLED化】

Q 電力不足が予想される中、市はクールビズや庁舎の節電に取り組んでいる。経済産業省は、消費電力量の多い白熱電球を本年中に生産中止するようメーカーに要請した。庁内の照明を早急にLEDに交換すべきだ。

A 庁内の照明は約15300個あり、年間150万円の照明にかかる電気料金が、LEDに交換すると60万円安くなる。初期投資と付帯工事に多額の経費がかかるが、平成25年度以降、使用頻度の高い場所から交換を検討する。

可決した議案

- 報告第1号 専決処分した事件(名張市市税条例の一部を改正する条例)の承認について
- 報告第2号 専決処分した事件(名張市国民健康保険税条例の一部を改正する条例)の承認について
- 議案第49号 名張市ペット霊園の設置の許可等に関する条例の制定について
- 議案第50号 名張市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第51号 名張市土地開発公社の解散について
- 議案第52号 地方財政法第33条の5の7第1項の規定に基づく地方債の許可申請について
- 議案第53号 三重県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更に関する協議について
- 議案第54号 平成24年度名張市一般会計補正予算(第1号)について
- 議案第55号 比奈知小学校屋内運動場耐震補強及び改修工事(建築・機械設備)請負契約の締結について
- 議案第56号 錦生小学校屋内運動場耐震補強及び改修工事(建築・機械設備)請負契約の締結について
- 議案第57号 財産の取得について
- 議案第58号 財産の取得について
- 議案第59号 人権擁護委員の推薦について
- 議員提出議案第6号 「防災・減災ニューディール」による社会基盤再構築を求める意見書の提出について
- 議員提出議案第7号 再生可能エネルギーの導入促進に向けた環境整備を求める意見書の提出について

賛否の分かれた議案はなし

請願について

- 請願第1号 「社会保障と税の一体改革」による消費税の増税は行わないことを求める意見書提出に関する請願→不採択
- 請願第2号 TPP交渉参加に向けた協議の中止を求める請願→不採択
- 請願第3号 年金額2.5%の削減中止を求める請願→不採択

日本共産党会派の橋本議員、三原議員は賛成
その他の議員は反対

もっと身近な「なばり市議会だより」に



「皆様にとってわかりやすく、親しみやすい、充実した紙面づくりを心掛けています」

(委員長) 幸松 孝太郎 (副委員長) 吉田 正己
(委員) 豊岡 千代子 森脇 和徳 細矢 一宏 三原 淳子

名張市議会では、現在議会改革を進めています。一人でも多くの人に市議会への関心を高めていただき、市民の皆さまの声をお聞きするための「出ずる議会」として、名張高校、名張商工会議所女性会、(社)名張青年会議所との懇談を行いました。議会広報特別委員会では、いただいた声や意見を「なばり市議会だより」に反映するよう、紙面づくりに取り組んでいます。

議会広報特別委員会と名張商工会議所女性会との懇談会

平成24年5月17日、懇談会の第2弾として、アスパにて名張商工会議所女性会との懇談会を開催しました。なばり市議会だよりについて、多くの貴重なご意見をいただきました。



議員の表彰

山下 松一議員

永年(25年)市議会議員の職にあるものとして、全国および東海市議会議長会会長から表彰を受けました。

福田 博行議員、柳生 大輔議員

全国市議会議長会評議員としての会務運営の功績により、全国市議会議長会会長から感謝状を受けました。

インターネットで会議録を見ることができます

名張市議会、名張市議会事務局(市役所ホームページ内)のホームページからアクセスできます。☞ <http://www.city.nabari.lg.jp/gikai/>

おことわり

議員からのお祝い金など寄付行為につきましては、公職選挙法により禁止されています。皆さまのご理解をお願いします。

ご意見・ご要望をお待ちしています

議会広報特別委員会(議会事務局 ☎63-7834)



議会の日程(予定)

※ 日程を変更する場合があります。

開会は午前10時からです。ぜひ、傍聴にお越しください(事前申込不要)。一般質問はケーブルテレビで放映されます。

9月 4日(四) 開会	14日(金) 決算特別委員会(一般・特別会計)
7日(金) 一般質問	18日(四) 決算特別委員会(企業会計)
10日(日) 一般質問	19日(金) 総務企画委員会
11日(月) 一般質問	20日(土) 教育民生委員会
12日(火) 補正予算	21日(日) 産業建設委員会
13日(水) 決算	26日(金) 採決